

# 小平浪平が残した功せき



## 1

### ◆ 純国産の5馬力モーターをつくった

電気の力を機械が動くための力に変えるモーターは、「機械の心ぞう」とも言われます。しかし当時の日本ではモーターがつかれず、外国せいにたよっていました。そこで浪平が仲間たちと研究・開発を始め、1910年(明治43年)に完成させました。浪平は「モーターは回るもんだが、なかなか回らなかった。やっと回ると、モーターの周りをみんなで手をつないで、うれし泣きしながら回ったものだ」と当時をふり返っています。

このときつくられた純国産の5馬力モーターは、2023年(令和5年)6月に国の重要文化ざいに指定され、今は日立オリジンパーク(18ページ)で見ることができます。



▲ 純国産の5馬力モーター

## 2

### ◆ 日立製作所をそう業し、日本のものづくりのきそをつくった

今、自動車や家電せい品など多くの「MADE IN JAPAN」が世界中で使われ、日本せいは品しつが良いと信らいされています。しかし浪平が生まれた明治時代は、電気機械はすべて外国せいでした。浪平は「すぐれた自主ぎじゅつ・せい品を通じて社会にこうけんする」という信念で日立製作所をそう業しました。

日立製作所は電気機械だけでなく、1926年(大正15年)には家庭用せん風機をつくり、初めてアメリカにゆ出。「ものづくり大国ニッポン」をつくるきそになりました。今や日立製作所は、身近な家電せい品から社会をささえる交通すい道、じょうほうや通信まで、あらゆる分野に広がる世界的なそう合電機メーカーになっています。



▶ ばん年の浪平とせん風機

## 3

### ◆ 国産第一号の大がた電気機関車を完成させる

明治時代後半から大正時代、それまでのじょう気機関車が電気機関車に変わっていきます。しかし電気機関車の車体はすべて外国の会社に注文していました。そこで日立製作所は、山口県下松市にある笠戸事業所で大がた電気機関車の自主開発にちょう戦します。鉱山用の小がた電気機関車はつくったことがあるものの、大がたは初めてで大変でしたが、1924年(大正13年)に試作1号機が完成。国産第一号の大がた電気機関車として東海道線を走りました。

今も日立製作所笠戸事業所ではさまざまな鉄道車両をつくっています。新かん線の車両はもちろん、栃木市を走る東武鉄道スペースXの車体も笠戸事業所でつくられています。



▲ 国産第一号の大がた電気機関車

## 4

### ◆ 日立製作所栃木工場をつくった

1942年(昭和17年)、日立製作所が新しい工場をつくる場所をさがしていると聞いた当時の栃木市長高橋延寿と栃木商工会議所第7代会頭関根源七は、「栃木市のしょう来の発てんのために」との思いで協力し、ぜひ工場をつくってほしいと浪平へお願いをします。市が工場用地に提案したのは太平山を望む平らな土地で、東武鉄道がすぐ目の前を走り、国鉄(今のJR)両毛線にも近い場所でした。日立製作所も、そう業者である浪平ゆかりの地に何か記念を残したいと考えていたため、日立製作所と栃木市の両方の望みが合わさって栃木に工場をつくることになりました。起工式には、浪平もその場所に来てあいさつをしました。

日立製作所栃木工場は、1944年(昭和19年)に完成。896,000m<sup>2</sup>もの広大な面積のこの工場は、今は日立ブランドの「冷ぞう庫」「ルームエアコン」を生産する家電生産のきよ点となっています。



▶ 栃木工場の起工式であいさつをする浪平